



■日時:令和8年8月21日(金) ■会場:八戸グランドホテル

参加者:マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ会員8名・指導者3名・プラチナ会員4名・付添21名 計52名



主催者挨拶

八戸市長 熊谷 雄一様

本日、海洋研究開発機構理事長の河村智彦様、元衆議院議長の大島理森様をはじめ、多くの皆様のご臨席の下、記念式典を開催できますことは誠に喜ばしく心より御礼申し上げます。海洋研究開発機構JAMSTECと八戸市につきまして、平成17年の地球深部探査船「ちきゅう」の初入港を機に、マリエントにおける「ちきゅう」情報館の開設や「ちきゅう」たんけんクラブの発足、平成27年には八戸工業大学とJAMSTEC連携連絡室の設置など、海洋人材の育成に向けて連携を深めてきました。令和5年にはJAMSTECと市教育委員会が共同で、小学生向け海洋STEAM教材の開発を進め、本年3月には海洋STEAM教育事業に関する連携協定を締結するなど、当市の子どもの自らの学び、課題を解決していく力の育成に共に取り組んでいます。さらに、海洋調査研究を最前線に担っている深海潜水調査船支援母船「よこすか」の老朽化に伴い、先月16日にはむつ市と当市が、JAMSTEC新母船建造予算の確保について国への要望を行ったところであり、新母船の建造がレアアースをはじめとする海洋資源の開発や頻発する地震の実態を解明する最先端の研究に寄与すると同時に、市民生活の安全・安心の確保につながるものと期待しています。海洋研究で世界をリードするJAMSTECと当市が、20年もの長きにわたり、手を携えて各種取り組みを進めることができましたのは、八戸市議会議員連盟の皆様、そして坂本議員が会長を務められる我が国の海洋研究を推進する市議会等議員連盟のご支援と、皆様のご理解・ご協力の賜物であり、改めて深く感謝を申し上げます。八戸市といたしましては、今後もJAMSTECと連携し、防災・減災対策の強化や水産・環境をはじめとする産業振興など、多くの分野で研究成果を活用できるものと期待しておりますので引き続きお力添え賜りますようお願い申し上げます。式典では、JAMSTECの菊池様、海洋STEAM推進課長の市原様に講演をいただけたとこのことで、貴重なお話が伺えるものと楽しみにしております。また、JAMSTECより様々なご協力をいただきながら、海と地球の科学への理解を深める活動を行っております。マリエント「ちきゅう」たんけんクラブの子どもたちからの活動報告も予定しておりますので、海洋研究に関する理解や関心が一層深まる機会となることを願っております。結びに、国立研究開発法人海洋研究開発機構の今後益々のご発展と、ご出席の皆様のご健勝と、さらなるご活躍をお祈り申し上げ、私からの挨拶といたします。



元衆議院議長

我が国の海洋研究を推進する市議会等議員連盟 名誉顧問 大島 理森様

来賓祝辞

本日は20年の歩みに対し、感謝を込めて参加いたしました。今日は、八戸市議会議員の皆様とともに、横浜、静岡、神戸といった全国ベースからのご参加、海洋研究の推進に取り組んでいただいているJAMSTECの皆様、文科省の新井様も遠くからもわざわざ八戸にお越しいただきました。ありがとうございます。

JAMSTECのこれまでの研究に対し、この20年の歩みをつくられてきた、八戸の市議連、全国の市議連の皆様方に、心から敬意を表したいと思います。

かつて文化省、文部省、科学技術省の両省庁の大臣を仰せつかりましたときに、特に科学技術政策、科学技術の重要性ということを、懇々と皆様に教えていただき、地球深部探査船「ちきゅう」を造る予算化をしたことがございます。

皆さん、地球のみならず、海というのは私たちにとってどういう礎だろう、海の研究とは何だろう、宇宙と海、これを人類としてどう考えるべきだと思いますか？一言で言うと私は、海というのは「生命」だと思います。人間の生命、それに関わる存在だと思います。人間はどこから生まれて、そしてどう人類として生まれてきたのか。八戸は、海とともに発展してきましたが今、海の変化が、いろいろな意味で私たちに影響を及ぼしています。宇宙は研究、希望、チャレンジといった言葉が連想されますが、海の研究、海底の研究は、ひょっとしたら宇宙よりも、人類、あるいは日本社会含めて、もっともっと力を入れなければならない、そう感じてなりません。海、海底の研究は、八戸にとっても、大変大きな研究であり、関係が深いことから、この20年の間、子どもたちに海を考え、勉強してもらった、このような機会を、JAMSTECの皆様方のご協力をいただき、市町村はじめ教育委員会の皆さんが、一生懸命取り組んでこられたことは素晴らしいことだと思います。15年前の東日本大震災、あの時、吹上小学校の子どもたちは、「ちきゅう」に乗って避難させていただいております。歴史も振り返り、これから子どもたちへ興味を持たせ、関心を持たせることで、将来、海の研究者になりたい、というモチベーションを持って、頑張ってくれる子どもを生まれるかもしれません。

この20年のご努力、持続するご努力に、心から敬意、感謝を申し上げます。最後になりますが、熊谷市長をはじめ、皆さま方が活動してくださり、全国ベースからお越しいただいたこと、心から感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

来賓祝辞

文部科学省大臣官房審議官 新井 知彦様

20周年記念式典が盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。海で囲まれた海洋国家である我が国日本において海洋研究は、国家戦略上重要な取り組みであり、海洋研究開発法JAMSTECの活動にご理解をいただき、20年にわたって海洋研究の発展のためご尽力いただいておりますことに敬意を表し、改めて感謝を申し上げます。政府におきましては7月、海洋政策本部、海洋分野で官民投資ロードマップも策定されました。こうした動きがある中、JAMSTECは、我が国の海洋科学技術の中核班として、益々重要な役割を担っていくものと考えております。そして我が国の深海探査能力の維持・拡大に向け、超深海探査汚染に関する予算計上ができるよう、しっかりと取り組んで参ります。また、次世代を担う海洋人材の育成を拡大するという非常に重要な方針においては、JAMSTECや教育委員会との協力を中心に、海洋を通じて総合的に学び、問題解決能力や創造性を育む、海洋STEAM教育の教材政策、授業への投入を積極的に取り組んでいただいていると承知しています。3月には海洋STEAM教育ハンドブックの政策にもご協力をいただきました。連携した取り組みや展開を、今後より一層発展していくことを目標とし、八戸市をはじめ、JAMSTECや関係各所と連携し、海洋に関わる科学的知見の充実や基盤の強化を図り、多様な海洋研究が推進されるよう全力を尽くしてまいりますので、一層のご理解と支援のをお願いいたします。本日は本当にありがとうございます。

青森県知事 宮下 宗一郎様

代理：青森県交通地域社会部理事 奥田 昌範様
平成17年に地球深部探査船「ちきゅう」が初めて八戸港に入港して以来、JAMSTECと八戸市による海洋研究や学校教育の分野における勉強の取り組みが継続され、設立20周年の節目を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。議員連盟の皆様におかれましては、20年にわたり研究成果の活用と地域振興にご尽力され、坂本会長をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。八戸市では、八戸市市民大学講座の実施や、八戸市水産科学館マリエンにおける「ちきゅう」情報館の設置、小学校向け公開講座や教育活動が行われてきました。こうした取り組みを通じ、地域の皆様が海洋科学に親しみ、その重要性と可能性を振り返る機会が生まれ、地域の海への愛着が育まれ、次世代の育成にも大きく寄与していると考えています。また、JAMSTECが行う掘削調査や、国内外の研究成果の発信など、海洋科学の最前線の取り組みは、地球規模の課題解決のほか、地域における安全・安心、環境保全、資源活用など、地方創生にもつながることと期待しています。今後も地域連携を一層強化し、海洋科学の発展と地域の活性化に取り組んでくださることを願っております。さて今年は、本県において国民スポーツ大会が開催されます。海洋科学分野における研究や教育活動同様、スポーツも子ども達の夢や挑戦を後押しし、地域の魅力を高める大きな力になると思いますので、この大会を盛り上げてくださるようお願いいたします。今後皆様の更なる発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

来賓祝辞

国立研究開発法人海洋研究開発機構
理事長 河村 知彦様

20周年という記念すべき節目を迎えられましたことを大変嬉しく思います。八戸市とJAMSTECの結びつきは2005年、地球深部探査船「ちきゅう」の八戸入港から本格的に始まりました。この20年を振り返ると、単なる協力関係にとどまらない、非常に信頼の深い絆が築かれてきたことを強く実感します。特に印象深いこととして2011年の東日本大震災、「ちきゅう」の船上で被災し、船内で過ごした子ども達を、海上自衛隊との迅速な連携によって行われた救助活動です。困難な出来事を共に乗り越えたという実績、経験は海と共に生きる私たちに共通の使命を一層強く認識させるものとなりました。また八戸市議会の皆様がいち早く海洋研究開発機構研究成果活用促進、八戸市議会議員連盟を結成され、全国的な原型として発展したことは、大変心強いものとなっています。加えて八戸市水産科学館マリントを拠点とした「ちきゅう」たんけんクラブの活動や海洋STEAM教育事業は、八戸モデルとして次世代の海洋人材を育む確かな礎となっています。子ども達の好奇心を育み、未来の海洋人材の育成に繋がる取り組みは、海洋国家日本の未来への非常に重要な事業であり、今後も全国に広げていきたいと考えております。私たちJAMSTECは新たな時代に向け、海洋研究、技術開発の更なる推進を目指しております。八戸市とJAMSTECとのパートナーシップをさらに進化させ次世代へ向け、より豊かな社会の実現へつなぐことができますことを確信して私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



我が国の海洋研究を推進する市議会等議員連盟 相談役
横浜市議員 佐藤 祐文様

20周年という節目を迎えられたこと、本当に素晴らしいことだと思っております。私たち市議会議員におきましては、長年にわたって、こういう問題に携わることができず、特に坂本会長のリーダーシップにより、今では10市の市議会議員同士が、この活動に参加させていただいています。そして市議会議員出身の国会議員の方々も顧問として、一緒に全面に立って活動させていただいています。海洋研究は、将来、私たち日本にとって大変重要な研究ですので、私たち議員連盟もしっかり努めさせていただきたいと思っております。横浜市は来年3月19日、GREEN×EXPO、国際園芸博覧会の開幕を控えています。「花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージ」ということですが、環境問題が大きなテーマとなっております。環境を考えた時、我が国の海洋を考えると同じように大変重要だと思っておりますので、多くの方に会場に足を運んでいただけたらと思います。坂本会長のリーダーシップがなければ、今の議員連盟が存在しなかったと、思っております。私も今後、活動を行っていくと、お話ししながらご挨拶に変えさせていただきます。おめでとうございます。



来賓祝辞

八戸市議会議員 藤川 優里様

20周年の記念式典が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げますと共に20年に渡り、JAMSTECと本市との連携を支えてこられた関係者の皆様、そして議員連盟設立以来、その歩みを支えられてこられた諸先輩方に深く敬意と感謝を申し上げます。この20年、議会もまた、皆様と共に連携の後押し役として歩みを重ねてまいりました。特に意味深く感じているのは、この連携が海洋STEAM教育というカタチで着実に「人創り」へと繋がってきたことです。海を身近に感じ、海の未来を考える子ども達がどんどん育っています。我が国は地方を海で囲まれた海洋国家です。海洋産業を支える人材の育成は地球環境、自然災害、海洋資源など我が国の将来に関わる課題解決に大きく貢献することでしょう。



海と共に歩んできた八戸から、我が国を支え世界に羽ばたく海洋人材を育てていくことこそ、海の恵みを受けてきた地域が果たしゆる大きな役割の一つではないかと考えます。海が一つの都市のものではないように、支える議会のチカラもまた、全国の仲間と手を携えてこそ確かなものとなると考えています。20年の節目を迎えた本日はこれまでの歩みに感謝し次の20年に向けた新たな出発点でもあります。議会としてもこの連携と全国の仲間と絆をチカラに、次世代を担う人材創りをさせていただきます。結び海洋国家日本の更なる発展を心より祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

基調講演

テーマ：次世代の深海を担う研究船について



国立研究開発法人
海洋研究開発機構 菊池 隆雄



八戸市とJAMSTECの友好連携20年という記念日に講演をさせていただきます。大変光栄に思います。この20年を振り返り、私たちの考え、超深海探査母船についてご説明させていただきます。

八戸市とJAMSTECの20年もの長きにわたる歩みと、JAMSTECが所有する研究船の研究成果、また老朽化による問題から、新しく建造される超深海探査母船のコンセプトなどが説明されました。各種探査機の効率的な運用を実現し、防災・減災、資源、環境といった観点から、海洋研究や海底調査は極めて重要な役割であり、世界をけん引する研究を実施することを目指すと話してくれました。

基調講演

テーマ：海洋STEAM教育の幕開け～八戸市から全国へ、次世代へ～



今まで6巻分の教材を制作し、公開！
八戸市とは6巻と一緒に制作！！

- 1.海の生き物と環境の変化
- 2.海洋プラスチックと私たちの生活
- 3.海の地震と防災 海底下の地層
- 4.深海探査の探究
- 5.北極の研究と船
- 6.地球環境と海



国立研究開発法人海洋研究開発機構
事業推進部 海洋STEAM推進課長

全てのプロジェクトの始まりは3年前、熊谷市長をご訪問し、海洋分野のSTEAM教育を八戸市で進められないか、という提案に市長から即答で是非八戸で先行的にやってほしいとおっしゃっていただいたことから始まりました。

STEAM教育を行う意味、高度な教育ではなく、全ての子どもにとって自分事となる将来のこと、これまで学習してきたことを駆使して、正解のない課題を考える学びを、生涯に渡って課題解決のために学ばという意欲に繋がっていく、八戸モデルをベースに全国的に広げて行きたい、と話してくれました。

シートを作成し問いに対する自分の考えをまとめ、考えを表明しようという点はたんけんクラブと似てます！！

事例発表

マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

テーマ：マリエント「ちきゅう」たんけんクラブの活動



設立20周年のお祝いを申し上げます。おめでとうございます。またこのような機会を与えてくださり、感謝申し上げます。これからマリエント「ちきゅう」たんけんクラブの取り組みについて紹介いたします。はちのへ「ちきゅう」情報館のオープンと同じ、2007年12月1日に発足しました。発足当初はジュニア会員10名でのスタートでしたが、今年度の会員数は163名、これまでの累計会員数は2,901名になりました。



ジオパーク全国大会への出場

1.クラブでどのような活動をしているのか

学校では体験できない特別な活動をおこなっています。世界の前線で活躍する研究者の生の声を聞き、直接質問する機会もあります。このように一流や本物に接する機会を通して身の周りの「不思議」に目を向け、疑問を持つことへの大切さを学んでいます。



英語での発表も挑戦しました！！



JpGUでの取り組み

2.JpGU2026年大会での発表について紹介

【シニア会員7名】

川口 慶治さん	八戸聖ウルスラ学院高等学校 3年
岩岡 美彩希さん	八戸聖ウルスラ学院高等学校 3年
平 希望さん	八戸北高等学校 3年
秋山 美鈴晃さん	八戸工業高等専門学校 マテリアル・バイオ工学コース 3年
坂本 慧音さん	八戸工業高等専門学校 マテリアル・バイオ工学コース 1年
工藤 夏実さん	岩手県立種市高等学校 2年
藤原 由理奈さん	岩手県立種市高等学校 1年

【ジュニア会員1名】

川口 紗織さん	八戸聖ウルスラ学院中学校 2年
---------	-----------------





3. インターナショナルセッションで行った英語での発表について紹介

JpGUで発表したことと同じように一部を英語で紹介しました。



4. ジオ紙芝居について紹介

子どもから大人まで分かりやすく学ぶことができるよう、物語として伝えました。

わたし かつどう つづ

私たちがこれまで活動を続けてこられたのは、

ほちのせい はのへんしきょうく いらいがい

JAMSTEC、八戸市、八戸市教育委員会、そしてJAMSTEC

けんやう せいか かつよう しゅ ほちのせい かい だい じん りんぬい おお

研究成果活用促進八戸市議会議員連盟をはじめ、多くの

かたにげ しえん きょうりやく こころ がんしゅ ひろ

の方々のご支援とご協力があったからです。心より感謝申し

あ かつどう とが けいがい い

上げます。活動を通して、社会のために活かしていくことを

ちがひ もつ あ せいじちよう

お願い申し上げます。ご清聴、ありがとうございました。



今日は、「ちきゅう」たんけんクラブの活動について、発表する機会を頂き、ありがとうございました。

20周年のお祝いを申し上げますとともに、多くの皆様のご協力のもと、

活動が^{かつどう}行^{おこな}われていることに^{かんしゃ}感謝し、

しょうらい はちのへし せかい かいだい かいけつ と く じんざい けんめい と く まい
将来、八戸市、世界の課題解決に取り組める人材となるよう懸命に取り組んで参ります。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



スナック

県内外から
総勢120名もの
ご出席者!!

令和8年8月22日(土)
東奥日報 掲載記事

[illegible]

令和8年8月22日(土) デーリー東北 掲載記事

海洋機構と一層の連携を 八戸で講演設立20年式典



発表前は
緊張気味の表情!!



発表後は
自信に満ち溢れた表情!!

会場からは大きな拍手!自信と達成感を見ることができました!